

## 調査の目的と方法

### 1 調査の目的

日本看護協会会員の大部分をしめる病院勤務会員の労働条件を明らかにするとともに、労働条件に対する会員の問題意識をさぐり、今後、協会が労働条件改善をすすめる際の基礎資料とする。

### 2 調査の対象者

日本看護婦協会会員の助産婦、看護婦(士)、准看護婦(士)のうち病院勤務者を対象者とした。

### 3 調査の時期

昭和54年10月末～11月末の1か月間。

### 4 調査の方法

必要標本数は層別系統抽出法を用いて算出した。病院勤務者割合と年齢の平均・標準偏差は「昭和52年会員実態調査」による。会員数は昭和54年8月31日現在数による。

#### ○病院勤務者数

助産婦部会	7,896人
看護婦部会	158,607人
合計	166,503人

#### ○昭和52年の年齢の平均と標準偏差

助産婦部会	平均年齢	38.3歳
	標準偏差	11.40
看護婦部会	平均年齢	34.1歳
	標準偏差	10.16

#### ○許容誤差

$d = 0.52$  とする。

以上から必要標本数  $N$  を算出した。

$$N = \frac{t\alpha^2 (\sum n_i \sigma_i)^2}{N^2 d^2} \\ 1 + \frac{t\alpha^2 S_r}{N^2 d^2} \\ = \frac{2^2 \times (7,896 \times 11.40 + 158,607 \times 10.16)^2}{(166,503 \times 0.52)^2} \\ 1 + \frac{2^2 \times (7,896 \times 129.7 + 158,607 \times 103.2)}{(166,503 \times 0.52)^2} \\ \doteq 1,531$$

ネイマンの最適配分により部会別の必要標本数を次の通り算出した。

$$\text{助産婦部会} \quad 1,531 \times \frac{7,896 \times 11.40}{1,701,461.52} \doteq 82$$

$$\text{看護婦部会} \quad 1,531 \times \frac{158,607 \times 10.16}{1,701,461.52} \doteq 1,450$$

合計 1,532

ただし回収率を50%と見込み、1,532票回収するため、抽出標本数は各部会とも上記必要標本数の2倍にし、合計3,064票とした。

抽出には会員の会費納入票を用い、対象者に本協会から調査票を郵送した。

### 5 回収・集計

昭和54年12月末回収数は1,549票で、うち有効数は1,541票。必要回収数を満たしている。

調査票の点検は調査研究部が行ない、電算機により集計した。